

りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

◎注意事項をよくお読み下さい

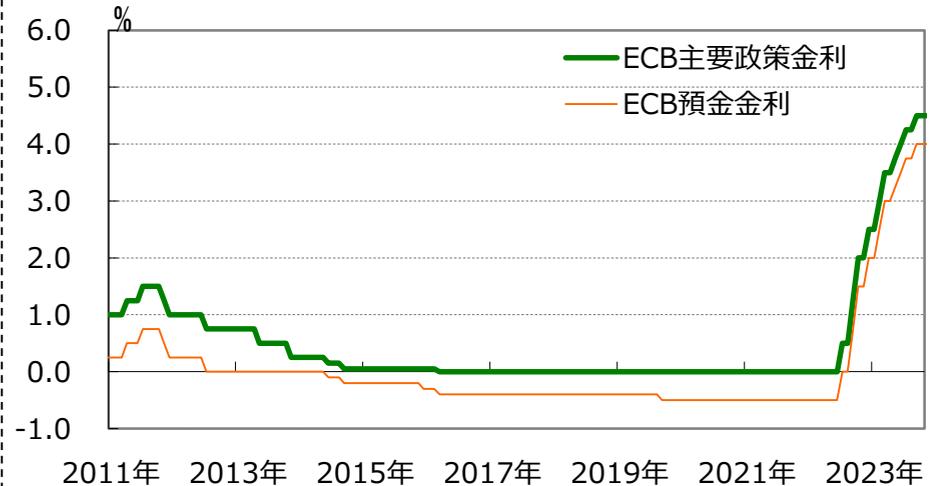


〇概況

- ◆ ECBは1/25の理事会で、3会合連続での政策金利据え置きを決定した(市場予想通り)。
- ◆ 事前のECB高官の発言からタカ派的なスタンスが維持されるとの警戒もあったが、記者会見でのラガルド総裁の発言はハト派的と捉えられ、ドイツ国債利回りは低下、ユーロも下落した。

- ✓ 1月25日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では金利水準の据え置きを決定。中銀預金金利は4.00%、主要政策金利は4.50%、中銀貸出金利4.75%。市場予想通りの結果となった。資産買い入れの方針についても、特段変更はなかった。
- ✓ ECBは声明で、インフレについて、前年のエネルギー価格下落に伴うベース効果の影響を除けば、インフレの低下トレンドは続いているとした。また前回の声明では単位労働コストの上昇に起因する内製的なインフレが指摘されていたが、今回の声明では言及はなかった。
- ✓ ラガルド総裁は記者会見にて今回の理事会で、利下げについての議論は「時期尚早」とし、「デイト（時期）ありき」ではなく「データ（経済指標）次第」だと従来の考え方を示しつつも、夏に向けての利下げの可能性については明確に否定しなかった。引き続き賃金や企業利益の動向を見極める必要があるとの認識を示したが、賃金について「すでに少し賃金上昇に鈍化がみられる」とも発言した。
- ✓ 事前のECB高官や、ダボス会議でのラガルド総裁のタカ派的な発言から市場ではインフレ警戒へのスタンスが維持されるとの警戒もあったが、今回の理事会のトーンは市場ではハト派的と捉えられた。ECBは引き続きインフレの見通しに慎重な姿勢を示しつつも、足元の低下トレンドに自信を深めているようにも見える。これまでの利上げの累積的な効果から欧州経済は引き続き弱い状況が続いており、早期利下げへの思惑が熾りやすい。市場ではハト派的なECB理事会の結果を受け、ドイツ金利は低下、ユーロもは対ドル、対円で下落となった。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（12月時点）】

| | 2023年 | 2024年 | 2025年 | 2026年 |
|--------------------|-------|-------|-------|-------|
| 実質GDP成長率 | +0.6 | +0.8 | +1.5 | +1.5 |
| 9月時点の見通し | +0.7 | +1.0 | +1.5 | - |
| HICP（消費者物価） | +5.4 | +2.7 | +2.1 | +1.9 |
| 9月時点の見通し | +5.6 | +3.2 | +2.1 | - |

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。